



峰 楓 徽 章 と 仰 ぎ

第1号

【発行人】

令和5年度一学期始業式 挨拶

2、3年生の皆さん 進級おめでとうございます。今日ここに令和五年度の伊那中学校がスタートします。そんな1年のスタートの場、そして一学期始業式にあたり校長として少しお話させていただきます。

私は3月の終業式で、私たちはどんな時に「なぜ?」「どうして」という疑問を抱くのかという話をさせていただきましたが、今日も「学び」ということをテーマにお話させていただきます。



【出発を祝う満開の桜】

先日私は次のような言葉のあるところで目にしました。

『学ぶ』ことは、自分の中に『多様性の森』を育てることだ

なかなか奥の深い言葉だなと思ったと同時に、「学ぶ」ということにより育つのだとここで言う「多様性の森」とは具体的にどんな学びを指しているのかなと考えました。中学校では、毎日の学習が行われます。日本の授業は教科書を活用して学ぶという形がとられています。とかく学習とは、教科書等書かれている内容を「できるようにする」「覚える」という活動が中心になりがちです。そして、どのくらい覚えたか、できるようになったかを試してみる。それがテストであるのとらえがちです。確かにそれも大事でしょう。

しかし、そういった活動だけでここでいう「多様性の森」は育つのでしょうか。そもそも「多様性の森」とは何なのか、謎になるばかりです。

私が考える「学び」における「多様性の森」のひとつは、「自分と違う考え方」という視点ではないのかなと考えました。一つの問題に出会ったときに「いろいろな考え方」が出てくることがあります。よく言う「いろいろなやり方」です。自分とは違う考え方に触れるからこそ、自分の考えが明確になることもあるでしょうし、時には、自分の考え方が変わることもあるかもしれません。また、その考えに「疑問」が出てくることがあるかもしれません。そんな時は「相手に聞いてみる」ということが必ず必要になります。コミュニケーション力が求められますね。

一方、「自分とは違う感じ方」という視点もあるかもしれません。道徳の授業などでは、「僕はこういうことが大事だ」と考えたとしても、すべての人がそう感じる訳ではない。まったく逆の感じ方をする人もいます。そんな時、「どうしてそんなふうに感じるのかな」と相手の気持ちに寄り添ってみることも大事になるかもしれません。「それもありなのかな」と一旦自分の中に受け入れて検討することも必要になる場面もあるでしょう。もちろん、どうしても賛同できないことだって人間にはあります。そんな時は、その気持ちをどう相手に伝えるか考えてみることも大事な勉強です。

さらに、「視点を変えてみる」ということもあるのかもしれません。自分が見ている方向からは気づけないことが、別の角度からアプローチすると見えてくることがあるかもしれませんし、まったく違う見え方があるかもしれません。ここでもまわりの人にちょっと意識を向けることが必要になりますね。今「自分とは違う考え」「自分とは違う感じ方」「視点を変えて見る」という3つのお話をしましたが、そんなアプローチで「多様性の森」の正体が見えてくるかもしれません。

さて、私はよくスマホでニュース記事を読んだり、YouTubeで動画を見たりすることで情報を得ます。実に便利ですが、そんな中で、ちょっと気になることがあります。それは、AI(人工知能)の機能が働き、自分の考え方に近い情報が関連記事として目に飛び込んでくる点です。興味を持ったことに関連する情報ですので、すごく便利だと思う反面、ちょっと怖いと思う部分もあります。それは、自分とは違う考えや興味の薄い分野の情報が、自分の前に現れてなくなるといことです。それでは先ほど言った「多様性の森」は自分の中に育たなくなってしまうのではないという心配です。

そんな危険から抜け出す一つに、「いろいろな分野の本を読む」という行為があると考えます。「多様性」に出会うことができる一つの方法になるかもしれません。3学期の終業式に「NEWS がわかる」とか「ジュニアアエラ」という図書館の本は「自己探究テーマと出会える可能性のある大事なツールだ」という提案をしましたが、「いろいろな本を読む」ことは今日お話しした自分の中に「多様性の森」を育てることに有効に働くのではないかと考えます。

私が目にした「学ぶとは自分の中に『多様性の森』を育てることだ」と書かれた文章の別のところに次のような記述もありました。

自分と違った視点に立つ訓練のひとつが「読書」である。「読書」は、視点を複数持つ力を育て、相手の立場を想像したり、総合的に判断したりする力を養い、そして、その判断を実行に移す勇気と行動力を生み出す。これは一人の人間の中で完結するものではなく、人と人との営みの中で養われる。さらに、そんな営みから「信頼」は生まれる。

私たちは日々「学び」という活動を行っています。今日お話ししたように、人間として成長するために、非常に奥の深い活動を行っているのです。

伊那中では今年から「マネジメントタイム」という15分間の時間を1週間に1回設定しました。

どんな時間にしていくか、そんなことを考えることからスタートします。「学び」についていろいろと考え、自分の学びを設計する時間になればいいと考えます。まずは「自分自身をもう一人の自分」として認識すること「メタ認知する」ことが大事になってきますね。

自分を知り、人を知り、そして多くを考えながら、『多様な森が育つ』そんな学びが展開する伊那中になることを期待します。

暖かな3月であったため、ここ伊那谷もまさに桜満開です。こんな美しい時に1学期がスタートできることに喜びを感じ、1学期の始業式の挨拶とします。

令和5年4月6日 伊那市立伊那中学校 校長 有賀 稔

【2年生 学級発表の様子】



令和5年度新任職員紹介

氏 名	担 当	前 任 校	氏 名	担 当	前 任 校

入学式 学校長式辞



ここ伊那谷は、今まさに桜満開、心弾む季節となりました。桜の花に彩られたこの春の佳き日に
ご来賓の皆様のご臨席を賜り、ここに令和5年度 伊那市立伊那中学校 入学式が挙行できます
ことを心より感謝し、御礼申し上げます。

103名の新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。ようこそ伊那中学校へ。今こうして皆さん一人一人の顔を見ますと、緊張の中にも瞳が輝いて「よし 頑張るぞ」という意気込みが伝わってきます。

昔から中学生の13歳から15歳の頃は、人間の一生にとってもっとも大切な時期であると言われる。それは、心身ともに大きく成長するからです。三年間で身長も伸び体重も増えます。同時に、様々な勉強をしたり、時には笑ったり時には悲しんだり悔しい思いをする経験を積むことで、体力や学力だけでなく、智恵が付き心が豊かになり、精神的に自立しようとする、そんな成長と充実の時期になります。中学校3年間は、自分の人生の土台を作る時なのです。そんな時期を迎える、皆さんに私から伝えたいこと それは「自分を見つめる力をつけよう、自らの学ぶ力をつけよう」ということです。

私たちは、新型コロナウイルスというこれまで経験のない状況に遭遇し、これまでの経験がそのまま使うことができない、そんな状況を体験しました。しかし、この状況は、決してコロナという脅威と立ち向かう中だけから生じてきた訳ではないと思います。今、世の中の価値観や社会構造が大きく変わってきているまさにそんな時代になっています。

学校という場も、大きな変化が求められています。私が中学生だった40年以上前は、「いかにたくさんのことを覚えるか」学校はそんなところだったように思います。しかし、今は情報化社会。スマホやタブレットから様々な情報は瞬時に得ることができます。覚えることを重視した時代は終わり、「自分を見つめる力」「自分で考える力」「活用する力」「人と意見交換する力」「判断する力」などが必要とされる時代となっています。「学び」とは、それは単に漢字・英単語を覚えるとか計算ができるようになるとか、言い換えれば教科書に書いてあることを覚えるだけではありません。

そこで、ぜひ皆さんに中学校の「学び」の中で意識してほしいことがあります。それは目の前のことに「疑問をもつ」ということです。わかりやすく言えば、何かに出会った時、「なぜ」「どうして」「なんで」と考えてみる力です。疑問をもつためには、自分の生活している毎日や世の中のことに「関心を持つ」必要があります。また、人の考え方に耳を傾ける必要もあります。伊那中では、日々の授業の中だけでなく「伊那中 マイ チャレンジ」という学習でもそんな力を伸ばしたいと考えています。

ところで、中学校では9教科の学習をしますが、「疑問をもつ」ということは教科学習や伊那中マイチャレンジだけではなく、私は「人の生き様」にも、関心を持ってほしいと思います。日々の生活の中では、時には自分と違う考え方や行動に出会うかもしれません。そんなとき、自分と違う考えや行動を否定するのではなく、「どうしてこの人はこんなことを考えるのだろうか」という視点で疑問をもってみることも必要になってくるのではないのでしょうか。自分と違う考え方や行動に触れながら、自分の心をいっぱい働かせること、時には自分と違う考え方や行動に悩むこともあるかもしれませんが、これからの不透明な社会を生き抜いていく中では、そんな経験も絶対に必要な力になると考えます。そして、その中で、自分自身を見つめ、自分のことを真剣に考える力が養われます。自分自身の考え方や行動方法を作り上げていくことができるようになります。中学時代はまさにそんな時なのです。

今日からの中学校生活で、たくさん感じ、考え、時には喜び、時には悩み、時には涙し、様々な経験をいっぱいすること、その一つ一つが皆さんを成長させていくでしょう。その中で忘れてはいけないこと、それは「自分を大切にするとともに、人も大切に」「人に感謝する」「自分と違う考えを受け入れる」そんな心を大事にして欲しいと考えます。そして優しさやうれしさを感じたときには、誰に対しても、素直に「ありがとう」が口に出る人になって欲しいと願います。

保護者の皆様、本日はお子様のご入学、心よりお慶び申し上げます。

子供たちを取り巻く社会も、めまぐるしい変化をしている昨今であります。入学に際し、期待と共に不安の入り交じったお気持ちもあるのではとお察し致します。私ども伊那中学校の教職員は、お預かりをしたお子様の中学校生活が、より充実したものになるよう精一杯努力していく覚悟であります。保護者の皆様には、今まで以上にいろいろな面でお支えと励ましをお願い致します。



【期待に胸を弾ませる新入生】

結びに、ご多用の中、伊那中学校入学式にご臨席いただきましたご来賓の皆様方、本日はまことにありがとうございます。学校は、皆様方地域の方々に支えられることで、充実した教育活動を展開することができます。ぜひ、今後とも本校の教育活動に対し、ご指導、ご支援いただきますようお願いいたします。新入生の晴れやかな顔を見ることができた入学式のこの場に感謝するとともに、新入生が、今日のこの気持ちを忘れずに、よい中学校生活を送ってくれることを期待し、校長の式辞と致します。

令和5年4月6日 伊那市立伊那中学校 校長 有賀 稔

夜間・休日の緊急時の電話対応についてお願い

標記の件につきまして下記の通り対応しております。ご確認の上、ご理解とご協力をお願いいたします。

- (1) 電話対応 平日7:50～19:00 学校 0265-72-6168
- (2) 夜間や休日において、緊急に連絡する必要が生じた場合は、以下の連絡先にお願いします。

【伊那中学校緊急連絡電話】 070-4127-6087

- (3) 保護者からの欠席連絡が、オクレンジャーを使ってできます。対応時間は6:00～8:30です。

ご家庭や地域の皆様、本年度も
よろしく願います。
(伊那市立伊那中学校 職員一同)